



ROTARY CLUB OF MITO

THE JOYO BANK, LTD.

2-5-5 MINAMI-MACHI MITO IBARAKI 310-0021 JAPAN

029 (225) 4820 FAX: 029 (225) 4825

雑誌委員会

委員長 岡崎恵一郎

副委員長 磯崎 寛也

雑誌委員会 月報

雑誌委員会委員長の岡崎です。今年度は、会員の皆様に「ロータリーの友」について関心を持っていただくことを目的に、「雑誌委員会月報」を発刊したいと考えております。初回は、文学的表現でおなじみの磯崎副委員長に読後の感想をまとめてもらいました。

それでは、1年間よろしくお願いたします。

ロータリーの友 7月号を読んで

磯崎寛也

印象に残った記事は二つ、今年度のRI会長 K.R ラビンドラン氏の記事 (P.7~19) と、フィリピンのある小さな島を理想郷にしようと 20 年以上そこに住んで開発を続ける NGO 法人「南の島から」理事長、崎山克彦さんの記事である (P.85~89, 縦組み P.4~8)。規模や場所は違えど、それぞれに共通するのは、己を捨てて理想に邁進する姿。一方、貨幣経済下において継続性を担保するにはビジネスマインドが必要だということも共通している。

おそらくは地元のセイロン島の自宅の庭なんだろう、会長夫婦が民族衣装を着て、満面の微笑みでさりげなく庭にたたずんでいる。この表紙の写真を見て、しばらく考えた。今の日本人ならどういう写真になるだろう？と。

ロータリーは自分の信条と、それぞれの国の民族性や固有の文化を全面に出すことができる組織なのだ。ロータリーのグローバリズムとはスタンダードに無理に合わせるのではなく、その差異を明確にして、立ち位置を決めることなのではないか。そして、そこに普遍的な物語があるのなら、国境も民族も宗教も超えて、それを引用し、主張することもできる。

彼は日本の岡倉天心とも交流のあったインドの詩人タゴールの詩を引用する。アジアで初めてノーベル賞を受賞した詩人である。

「楽器の弦の張り替えばかりして肝心の歌を歌わずに」過ごしますか？と。タゴールは 20 世紀はじめに来日した時、日本の軍国主義的傾向を痛烈に批判したこともある平和の人であった。

ラビンドラン氏の言葉は人生哲学と実践に結ばれているだけに、心に響く。「私たちの人生の価値はどれほど得たかではなく、どれほど与えたかによって判断される。己の才能は天から授かったもの。それをお返しする。それが今。」

ロータリーを追求することは人としての理想を追求すること、それは最後には聖人の域にさえ達するのだと思う。

当 2820 地区関連情報としては、ガバナー紹介において、倉沢修市ガバナーの人となりを知ることができる。倉沢氏は、1941 年 5 月生、74 歳。あだ名は修ちゃん、印刷会社の会長、寛容で気さくだが融通が利かない。よく動く。父親が龍ヶ崎 RC の創立会員。座右の銘の『己を忘れて他を利する』(P.28)。

情報のトピックは二つ、9 月 4 日 13 時~グランドプリンスホテル高輪の飛天の間で第 13 回日韓親善会議 2015 が開催される。来年 5 月の世界大会はソウルなので、ご関心のある方は参加されてはどうか (P.45)。

また、国際レベルの貢献を望まれる方は RI の各委員会の委員を募集しているので、8 月 20 日までに応募されたい (P.46~47)。